

まな や ものがたり つむ
この学び舎で 物語を紡ぐ。それは、
みらい
未来へと続く希望の物語だ。

北野小学校長 丹羽 郁人

岡崎大橋を西に抜ける。
平針街道バイパスの右手に、
白い鉄筋校舎が見える。
市内四十一番目の小学校として、
北野小学校は、
学区の期待を一身に受け、
昭和六十年四月に開校した。



学区には、
はるか昔、弥生時代の小針遺跡、
飛鳥時代の北野廃寺がある。
古くからの田園地帯も広がる。
江戸時代、徳川家康の命により
名古屋城への近道としてつくられたという平針街道が、
東西を貫く。
昭和時代に誘致された巨大な自動車工場もある。
そして、平成時代に建てられた、新しい住宅街も広がる。
そして、令和へ――。
培われてきた歴史と伝統のその上に、
そこに息づく人々のあたたかさ
文教の趣き薫る風が吹く。
懐かしさと新鮮さ。
あたたかさと豊かさ。
北野は、そんな学区だ。

学校の北東に広がる田園地帯。
子供たちは田んぼの真ん中を
通って通学している。
稲の成長を視野に入れながら、
子供たちは学校に向かう。

稲の成長は早い。
大地にどっしりと根をおろし、
健やかに育つ。
負けてはなるまい。
子供たちの足音は、
そう我々に告げている。

岡崎大橋を西に抜ける。
平針街道バイパスの右手に
白い鉄筋校舎が見える。
この学び舎で物語を紡ぐ。
それは、
未来へと続く希望の物語だ。

君の物語を――、
生きてゆけ。

